

「ラグビー王国 岐阜」育て

県協会会長に田代氏

後援会設立、支援を強化



田代正美氏

24日、岐阜市内で開かれた県ラグビーフットボール協会の総会で会長に就任したバローホールディングス(HD)会長兼社長の田代正美氏が明らかにした。後援会の代表理事には、バローグループでドラッグストアを展開する中部薬品の山口眞里社長が就いた。事務所は羽島郡岐南町に置く。

県ラグビー界の発展、普及などを支援する一般社団法人「岐阜県ラグビーフットボール後援会」が発足した。5月21日に事務所を開設するとともに賛助会員を募り、活動を本格化させる。大会の運営や選手強化に取り組み県ラグビーフットボール協会や選手らを資金面を含めて支援していく。関係者によると、都道府県単位の後援会の設立は、全国的にも珍しいという。

(山本貴史)

田代氏は、1982年から会長を務めてきた元運輸相の藤井孝男氏から要請を受けて就任した。任期は改選がある来年度の総会までの1年間。バローグループは近年、大会のスポンサーとして協会を支援している。田代氏は「高校ラグビーの活性化や次世代のラグーマンを育てたい。経営的な考え方や財政支援も含め、安定した基盤をつくりたい」と述べ、協会と後援会でスクラムを組み、競技力向上と普及活動に力を入

れる考えを示した。

協会の顧問にも就任した山口氏は、県出身で7人制女子日本代表の竹内亜弥選手の活躍を踏まえ、「県内に女子のラグビーチームを作りたい」と意欲を語った。